

## きよさと観光協会の「いま」と「これから」

特定非営利活動法人 きよさと観光協会

### 【きよさと観光協会の歩み】

清里町観光協会は発会当時、役場にありましたが、1999（平成11）年に商工会に移管後、2001（平成13）年に独立。

2006（平成18）年には事業規模拡大のため「特定非営利活動法人きよさと観光協会」に法人化しました。

主に観光振興、イベント開催、移住促進、特産品開発、ネット販売、ふるさと納税などの業務を行ってききましたが、2016（平成28）年以降に清里町の施設管理業務が加わり、現在は斜里岳山小屋、情報交流施設、オートキャンプ場、パークゴルフ場、裏摩周展望台、神の子池等、清里町所有の観光関連施設の管理運営を行っています。また各種事業の運営は、地元自治体との連携が強く事業費に関して支援を受けています。

他に観光協会の内部組織として「東オホーツクガイド協会」があり、登山・自然・自転車・農業体験のガイド派遣や登山道・トレイルルートの整備等、観光協会と一体となり事業を行っています。

### 【観光の拠点「きよさと情報交流施設きよ〜る」】

2016（平成28）年、清里焼酎を製造している清里焼酎醸造所に隣接し、観光振興と清里焼酎の拡販を目的に、きよさと情報交流施設「きよ〜る」がオープンしました。

きよさと観光協会が清里町から施設管理を受託し、直営で売店・カフェの営業を行っています。

施設では観光案内、各種情報発信のほか、体験型観光やイベントの企画運営、移住相談等のワンストップ窓口として業務を行っています。

売店では「清里焼酎」をはじめ清里産小麦を使用した、うどん・そば・クッキー等のほか、清里焼酎を生地に練りこんだ清里焼酎ケーキ、ブルーベリーとハスカップに清里焼酎の香りをつけたフルーツドレッシングなど特徴ある特産品を販売しています。

またカフェでは清里産小麦を使用した、夏限定のざるラーメンや、冬限定の鍋焼うどんが大好評です。

### 【清里じゃがいも焼酎】

清里町の主要産業は畑作農業で、じゃがいも・甜菜・小麦の原料作物3品が耕地面積全体の9割を占めていますが、清里町の特産品と言えば「清里焼酎」です。地元産のじゃがいもと斜里岳の湧水を原料に1975（昭和50）年、日本で初めて、町自らの手で誕生しました。

2014（平成26）年にコンセプト・デザイン・商品名等を刷新「北海道 清里」として生まれ変わりました。

有機的な3つの塊で構成されるシンボルマークは、清里町の原動力である「自然」「農業」「人」の3要素を象徴的に表現したものです。



清里じゃがいも焼酎「北海道 清里」

### 【サイクリング・トレイルを中心とした体験型観光】

清里町の観光は阿寒摩周国立公園と、知床国立公園の中間に位置し、「斜里岳」「神の子池」「さくらの滝」「裏摩周展望台」など豊かな自然と景観を活かした見る観光が主で、俗に通過型観光と言われてきましたが、近年は地域資源を活用した体験・滞在型観光事業にシフト中です。

現在、観光協会では「サイクリングを活かした体験観光」の推進を目指し、マウンテンバイク20台、電動アシストサイクル10台を所有、レンタサイクルやダウンヒルサイクリングツアーのほか、イベントとして「グランfondきよさと」\*を開催しています。

「グランfondきよさと」は実行委員会を組織し、観光協会が主管で2012（平成24）年から毎年開催して

\* 北海道知床半島の基部にある清里町で開催される広大な田園風景と自然の中を走るサイクリングイベント。

きました。新型コロナウイルス感染症のため休止していましたが、2023（令和5）年7月2日（日）3年ぶりに開催できました。

コースは、斜里岳の麓を一周（中標津町・標津町・斜里町を經由）するロング（160km）と清里町の農村景観を楽しむミドル（100km）・ショート（60km）の3コースで、前日はマウンテンバイクツアーを開催。

参加者は北海道内が中心ですが、道外参加者も1割強を占め、200名以上の方が参加されています。

タイムを競わず、変わる景色と風を感じながら走行、数か所のチェックポイントでは飲料や地元のスイーツで休憩タイム。ゴール後には地場産小麦粉100%、しかも石釜での焼きたてピザが1人1枚提供されますが、その場で食される方も多く毎回大変好評です。

大会運営には約100名のスタッフが必要です。選手をサポートして一緒に走る消防署職員をはじめ役場、スポーツ協会、商工会、観光協会等、関係団体の多くの方々によって大会が支えられています。



グランfondキよさと

昨年、環境省が中心となる、道東の3国立公園を結ぶトレイルネットワーク構想がスタート。

阿寒摩周国立公園と知床国立公園の間に位置する清里町は、摩周湖外輪山の裏摩周展望台までの未整備区間と、裏摩周展望台と神の子池間の原生林コースの整備を進めています。

本年度中には整備を終了し来年の開通を目指して関係機関との調整を進めています。

また、清里町内のトレイルコースには、サクラマス

がのぼる「さくらの滝」や広大な町営牧場跡で現在整備中の「ほしかぜの丘」があります。

「ほしかぜの丘」は昨年、斜里岳や農村景観が素晴らしい草原の中に、新たな観光スポットとしてオープンしました。文字通り星と風を感じる丘です。

トレイルランやマウンテンバイクの専用コースもあり、冬も含めた体験観光の拠点として整備中です。



ほしかぜの丘

### 【清里町の移住促進事業】

2007（平成19）年から始めた「お試し移住体験」と2016（平成28）年から追加した「空き家バンク」事業は、利用者の評価が高く、昨年「テレワーク」事業も開始しました。

空き家バンクについては近年、年間の登録物件数・契約件数とも10件～15件の実績があり、空き家対策はもとより移住促進に貢献しています。

「来て」・「見て」・「体験して」・「泊まって」そして最終目的は「住んでもらう」その目的達成を目指し、今後も体験型観光事業と移住促進事業を積極的に推進する予定です。

### 【まとめ】

清里町は、斜里岳や神の子池などの観光資源や農村景観の素晴らしい街と評されていますが、過疎化が進み人口は4,000人を割っています。現在求められているのは限られた資源と人材を活かした「まちづくり」であり、今後も自治体や地域団体などと連携し「新たなまちづくり」に挑戦していきたいと考えています。